

栗 東 市

提供年月日	令和 7 年 8 月 25 日
担 当 部 署	環境経済部 商工観光労政課

タ イ ト ル (事業名等)	農林水産省の交付金事業に「奥こんぜ農泊推進協議会」が採 択されました
概 要	【内 容】 農林水産省の事業「令和7年度 農山漁村振興交付金（地 域資源活用価値創出対策） 地域資源活用価値創出推進事業 （農泊推進型）」について、奥こんぜ農泊推進協議会が公募 されたところ、正式採択されました。 同協議会は令和5年度に設立され、栗東市金勝（こんぜ） 地区の南部にある里山集落や体験型施設が点在する地域を 「奥こんぜ」と呼び、この地域を対象とした活動を展開して います。 【事業主体】 奥こんぜ農泊推進協議会 【事業内容】 詳細については別添参照
資料の有無	有

奥こんぜ農泊推進協議会による取組み概要について

1. 奥こんぜとは

- ・栗東市金勝（こんぜ）地区の南部にある里山集落や体験型施設が点在する地域を、同協議会では「奥こんぜ」と呼び、この地域を対象とした活動を展開している。

2. 農泊とは

- ・「農泊」とは、農山漁村に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のことです。地域資源を観光コンテンツとして活用し、インバウンドを含む国内外の観光客を農山漁村に呼び込み、地域の所得向上と関係人口創出を図ること。

（農林水産省 HP より抜粋）

- ・農泊事業は、「宿泊」「飲食」「体験」といった観光コンテンツをパッケージ化して売り出すとともに農山村への地域経済の循環や、関係人口の創出に寄与する取り組み。

宿泊・・・ 森林体験交流センター、森の未来館など

飲食・・・ 奥こんぜエリアの飲食店（はしりファーム農家カフェ、如意の里ごきげんさん、自然薯料理とろりん、道の駅こんぜの里りっとうなど）や、オモヤ☆キッチン、ほっこり庵など

体験・・・ 各種イベント（田植え、稲刈り、収穫祭、左義長など）や、フォレストアドベンチャー栗東、スラックライン、田んぼラグビーなど

3. 取組み経過

■令和5年度

- ・農林水産省の農泊推進事業の採択を受け、同協議会は設立し農泊事業に着手。
- ・地域にある宿泊、飲食、体験等の観光コンテンツのネットワーク化を図るなどの体制づくりや、農泊事業に関する研修会、先進地視察等を通じた知見を収集するとともに、観光コンテンツを組み合わせたモニターツアー等を実施。

■令和6年度

- ・観光コンテンツの抽出や関心をもつ仲間づくりを進めるとともに、専門家によるモニターツアー造成の研修会や、外国人アドバイザーを招いたモニターツアーなど、インバウンドを含めたツアー造成の取組みを着実に進め、協議会を中心とした農泊事業の体制が整いつつある。
- ・担い手づくりの一環として、地域おこし協力隊の勉強会を開催するなど、観光コンテンツの磨き上げに向けた取組みの可能性を探る研修会を開催。
- ・万博ポータルサイトや旅行会社のOTA（オンライン旅行代理店）への掲載等を実施。
- ・イギリス人ファミリーの観光ツアーの受け入れなど、インバウンド観光の実践も始まっている。

4. 農泊推進事業(農泊地域経営強化タイプ)の実施

■令和7年度

- ・ 2年間の農泊事業の実績を踏まえ、更なる経営基盤を強化することで、奥こんぜ農泊推進協議会の自走する仕組みを構築するため、地域経営強化タイプ（2年間）の事業採択を受け、おもに次の取り組みを行う。

①ヒアリング・アンケート調査

- ・ 奥こんぜ地域の住民を対象としたヒアリング・アンケート調査を進め、奥こんぜ農泊推進事業の趣旨を伝えるとともに、観光コンテンツの認知度や本事業への参加意欲等を聴き取り、地域一体となった取り組みを目指す。

②体制強化と地域資源の磨き上げ

- ・ SNSを通じた情報発信による本事業の周知活動。
- ・ 専門家を招いた研修会等を通じた仲間づくりや観光コンテンツの抽出。
- ・ インバウンド観光客のニーズに対応した新たな観光プログラムの開発等。

③地域内移動手段の検討

- ・ (一社) 栗東市観光協会が実施するシェア乗りタクシーサービス『NearMe (ニアミー)』との連携や、地域内移動を円滑化する自転車の活用検討などを通じて、周遊型観光・滞在型観光の可能性を探る。

5. 事業実施による効果

- ・ 奥こんぜ地域では、走井集落を中心として地域住民が主体となる地域おこし活動が活発に行われてきたが、本事業を通じて他地域への波及や関係人口の増加に寄与することが期待される。
- ・ 地域ごとの取り組みをネットワーク化、パッケージ化することで、来訪者の選択肢を広げるとともに、周遊型や滞在型の観光の可能性が高まり、観光消費が進むことが期待される。
- ・ 地域資源を活用することでわがまちへの愛着と誇りを高めるなど、シビックプライドの醸成を図り、持続継続的なまちづくりに寄与することが期待される。
- ・ 地域にある小さな観光コンテンツは単体では集客力に限界があるが、これらをパッケージ化することで、観光誘客につながる可能性をもち、これらをマネジメントする役割を担う協議会が、自走する仕組みを構築できれば、持続的な活動となる可能性をもっている。